



「古事記」って、どういうものなの



神話や、^{れきだい}歴代の^{てんのう}天皇の物語を書いた、奈良時代の歴史書だよ。

^{ひえだのあれ}稗田阿礼が暗記した

「古事記」は、^{ていき}帝紀（^{けいず}天皇の系図や、^{きゅうじ}天皇家に關係のある重要な事）や旧辞（^{かよう}神話・伝説・歌謡・歴史など）をまとめた歴史書です。7世紀後半の^{てんむてんのう}天武天皇は、家々に伝えられている帝紀や旧辞には、まちがいが多いため、それらをけずって、正しいものを記録し、後の世に伝えようと考えました。そこで、稗田阿礼という家臣に暗記させましたが、記録をつくらないうちに、^な天皇が亡くなりました。

^{おおのやすまろ}太安万侶が記録した

奈良時代の711年9月、^{げんめいてんのう}元明天皇は太安万侶に、稗田阿礼が暗記した帝紀・旧辞を記録して、差し出すように命令しました。太安万侶は、稗田阿礼が暗記していたものを、あらためて選んで記録し、^{よくねん}翌年1月に天皇に差し出しました。これが「古事記」です。

歴史書というより文学作品

「古事記」は、上・中・下の3巻からなります。上巻は、日本の国土がどうしてでき、天皇の祖先がどうしてこの国に降りてきたのか、という^{かみよ}神代の物語をまとめています。中・下巻は、天皇1代ごとの物語で、中巻は^{じんむてんのう}神武天皇から^{おうじんてんのう}応神天皇まで、下巻は^{にんとくてんのう}仁徳天皇から^{すいこてんのう}推古天皇までの物語を書いています。「日本書紀」が、本文とはちがう言い伝えも書いてあるのに対し、「古事記」は、ちがう言い伝えを書いてないことなどから、「古事記」のほうが、歴史の資料としての値打ちが低い、とされています。しかし、「古事記」は、古代の人々を生き生きと書き表している点で、「日本書紀」よりも、文学作品に近いものになっています。